

大槌事務所の 「みのり」 13回忌を想う

大槌事務所が取り組んでいる「岩手県山田町2019年台風19号被災者伴走支援事業」は今年度で終わりを迎え、新法人事業へと移譲していきます。

それは共生地域創造財団の7つめの理念「復興ではなく新たな共生社会の創造を目指す」を掲げたように、災害復興支援から見えた取り組むべき社会課題と復興をこえた新たな共生地域を創造するためです。

現在大槌事務所では、大船渡・陸前高田に続くべく独立に向けて準備を進めています。わたしたち現地スタッフが地域に根差した新たな社会資源となれるよう、応援をお願いします！

13年目を迎えるとき、なにを想う？

あれから丸12年を迎えた3月11日。隣にいるはずだった大切な人の13回忌を、どんな想いで迎えたら良いのでしょうか？

わたしたちの過ごしてきたこの月日の長さや重ね方は、人によって様々です。

あの時、うまれて間もない赤ん坊は小学校を卒業し、小学校入学を心待ちにしていた子どもたちは高校を卒業します。

一方で、あの頃に応急仮設住宅で張り切って世話役をしていた人たちは、この世から旅立ったと人伝てに聞くことが多くなりました。

みな同じ時間を過ごしてきたようで、決して平等な時間ではないのです。

十三回忌には深い意味があるといえます。三回忌や七回忌、十三回忌といった年忌法要でよく使われる3や7という数字は、仏教において「迷いや偏った考え方から離れ、悟りを開く」という意味だと聞きます。

そう簡単に、時間では解決できないのが人の感情や熱情、人情なのではないでしょうか。

過ぎ去った時間を数えるのは、生きているわたしたちの自己満足や慰めに過ぎないのかもしれない。

本当に12年という歳月で、人々から迷いや後悔の念を切り離し、悟りを開くことができるのでしょうか？そして、志半ばで亡くなった数多くの魂は、「もっと生きたかった！」「大切な人と離れたくなかった！」という無念から解放される時がくるのでしょうか？

道路や防潮堤は、震災前より立派にそびえ立ち、震災復興は概ね終了しています。

しかし、まるで最初からそこに何もなかったかのように、ひっそりと映るこの景色に、わたしたちは都度、絶望に近い感情を蘇らせるのです。

復興は終わらない、感情は途切れない、「3.11を忘れない」のではない。

わたしたち被災地における“3.11”は、毎日繰り返される「日常」そのものなのです。

大槌事務所の 「みのり」 最終回 ～やっと実った小さな果実～



【左から 村上、中居】

大槌事務所の2人で立ち上げました
何度も言いますが姉妹じゃないんです(笑)

わたしたち大槌事務所スタッフは、2023年4月より独立し、「一般社団法人BlessU（ブレスユー）」として活動します。やっと、このご報告をみなさんにお伝えできたことに、心の底から感謝の気持ちが溢れます！この熱が冷めてしまう前に、こうしてカタチにできたのは、両生協組合員のみなさまをはじめとする、共生地域創造財団を支えてくださった方々のおかげです。

災害支援で見えた地域の社会課題に対し、「よそもの」ではなく、地元のものとして地域資源となり、誰もが生きる意味を感じられ、なが～く住むことができる「元・被災地」へと変革していきます！

そしてもうひとつ、嬉しいご報告！

2019年10月より行ってきた山田町における台風19号支援の様子が、NHK盛岡にて放送されました！

[ぜひ記事をご覧ください→](#)



福島から3.11を思う

福島事務所 豊田

2011年3月11日、私は岡山に住んでいました。夕方携帯電話をとると、「東北で大きな地震があった、福島のおじいちゃんとおばあちゃんが死んでいるかもしれない。」と泣きじゃくる娘の声が仕事場に響き渡りました。慌ててテレビをつけると、想像を絶する津波の映像が流れ、震えが止まらない手で、100回以上両親に電話をかけ続けました。ようやく無事を確認し岡山に来るように促しましたが、近所の人を捨てるわけにはいかないと断られ、その2日後、車に入るだけ食料品を積み、私は福島へ向かいました。

そんなことを思い出しながら歩く12年目の郡山は、いつもと変わらぬ週末の風景が広がっていました。お父さんと手をつないだ子どもたちが一緒に歌を口ずさみ、高校生の二人が恥ずかしそうに並んで歩いている。そんな当たり前の風景がなぜかとてもとおしく思えました。3.11の出来事は、その出来事と失われた多くのいのちを忘れてはいけない日であると同時に、今生かされるいのちを改めてとても大切に尊いものだと確認する日のように思えた瞬間でした。



午後3時すでに郡山駅前にはキャンドルナイトの準備が出来上がっていました。海老根伝統手漉和紙に描かれたメッセージは、ストレートに心に入ってきます。「山の向こうは私のふるさと」「いつもみんなのこと わすれない」言葉の向こうにある力に圧倒されながら、3.11と共に生きている人たちの思いの一端を感じることができました。

日が沈み、あたりが暗くなるにつれ、人が増えていきました。静かにたたずむ人、手を合わせる人達、久しぶりに同郷の人に会い、とてもいい笑顔で話をしている人達、灯ろうの光の向こうにいる一人一人の様子をぼんやりと眺めながら、どんな12年を過ごしてきたのだろうかと思いを巡らせました。

福島は、復興の途上です。避難解除が進み、帰還した人もいれば、様々な理由で故郷へ戻れず長期避難を余儀なくされている人も、それぞれ多くの問題を抱えています。今生きている場所で安心して生活を送ることができるまでに、多くの時間が必要でしょう。この社会で共に生きる一人として、他人ごとではなく、その時間を一緒に生きたいと思います。

私たちは、3.11を忘れるわけにはいかないので。



石巻から3.11を想う



(淡い桜色に染まる夕方の花栗浜)

「がんばろう石巻」の看板のある公園では、多くの人々が、それぞれの思いを胸に献花に訪れていました。

ソーシャルファームで育てた「希望」という花言葉を持つホップの力で、石巻の文化の中心に新たな光を灯そうと活動している地ビール工場ができました。



12年前の今日は、こんな日になるとは思ってなかった。
それは、あまりに悲惨で非日常で簡単に命が消えていく日だったから。
12年後の今日は、みんなが1年、生きた証を振り返る日になりました。
普段は語らない人も、自分の思いを語り何かしらの決意をしている。
そして、命は大事だとみんなで共有できる日。
そんな日になるなんて思いもしなかった。
そこに嬉しさを感じました。
そんな大切な日になりました。

～ 大川小学校の語り部の若者の備忘録より ～



<https://camp-fire.jp/projects/view/655793>

活動支援金寄付のお願い

長期的な支援を実現するために一人でも多くの皆様に応援していただければと思います。

◇郵便局から振替の場合
郵便振替：02250-6-126459
口座名：公益財団法人 共生地域創造財団

◇郵便局以外から送金の場合
銀行名：ゆうちょ銀行
店名 二二九店（二ニキュウ店）
口座 当座
口座番号：0126459
口座名：公益財団法人 共生地域創造財団

◇ 大川小学校のゆうやけ

震災遺構として残された大川小学校。

夕日に照らされて輝いていました。それは、どんないのちも等しく大切なことを、そのいのちはそのままで輝

いていることを教えてくれるかのようでした。多くのいのちが消えた日だから、この日が来るごとに、みんな同じいのちだと、そのすべてのいのちが尊いことを想ってください。

(本部事務所 担当 吉田)

